

# 国内携帯電話市場動向について

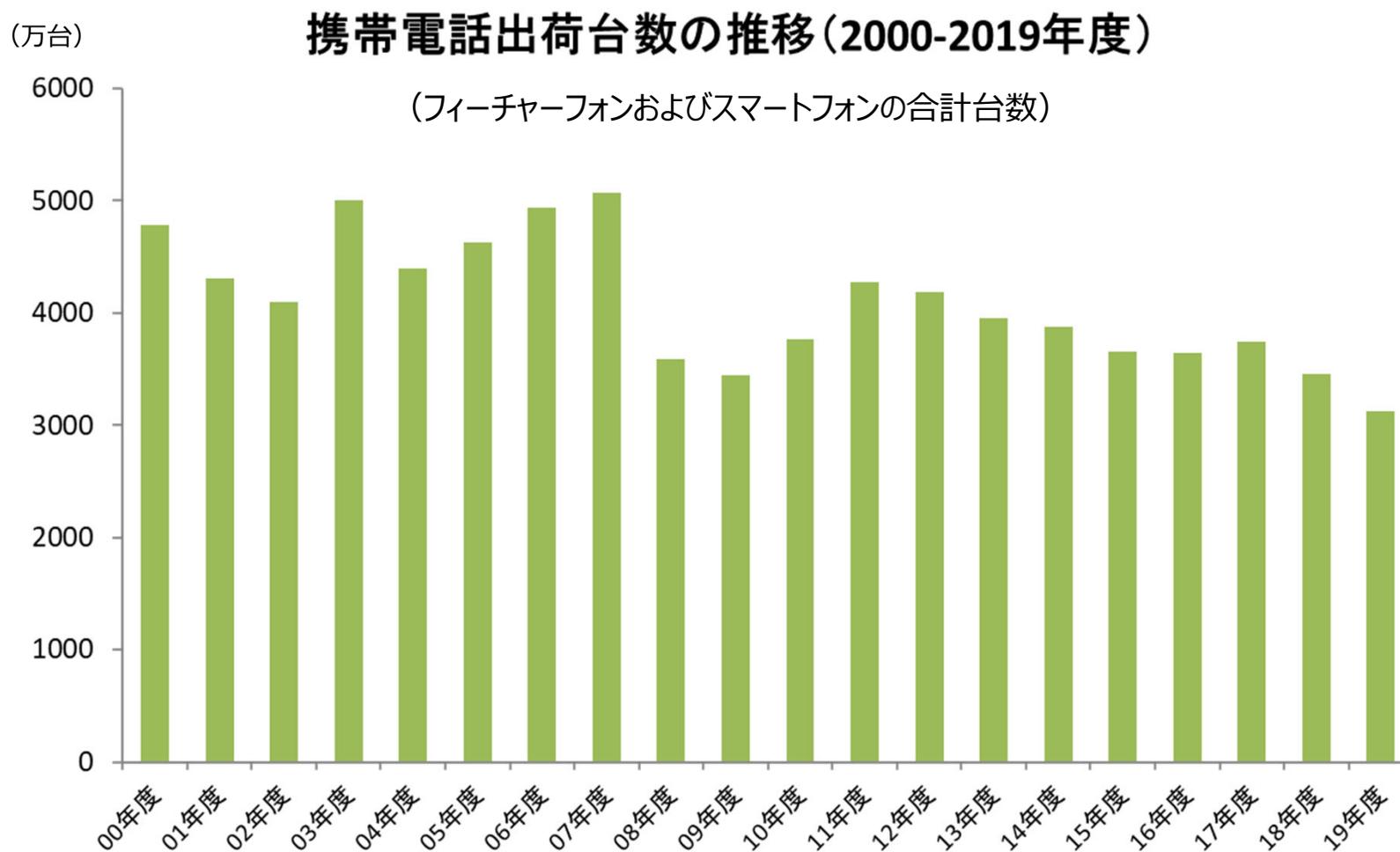
2020年6月11日

**MMRI**  
株式会社MM総研

Moving Mobile & Mobility Forward

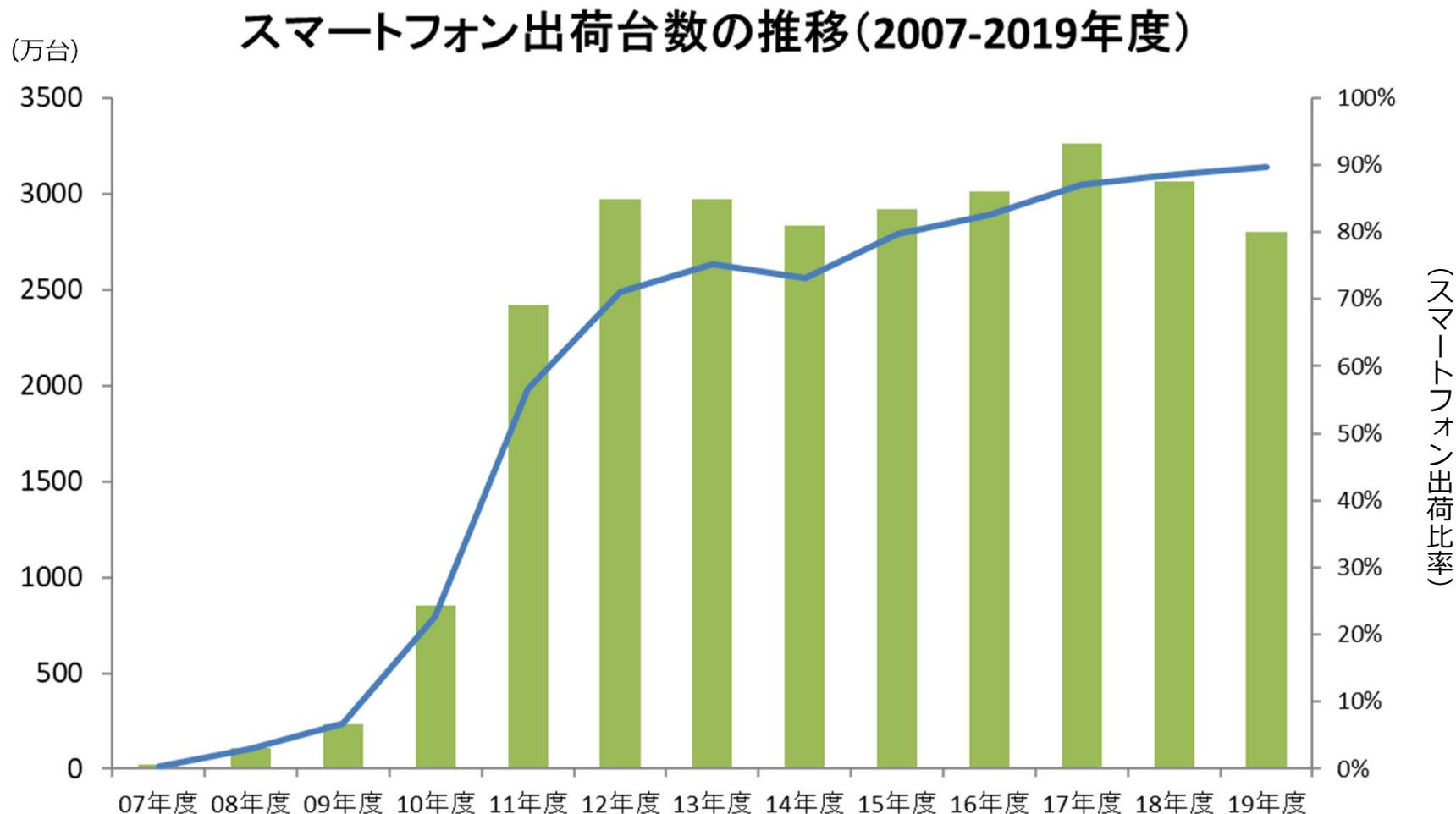
## 携帯電話出荷台数の推移

- 2019年度通期携帯電話出荷台数は3,125万台。MM総研による出荷統計開始の2000年以降では過去最少となった。
- 2007年度の5,076万台が過去最高であった。



## スマートフォン出荷台数の推移

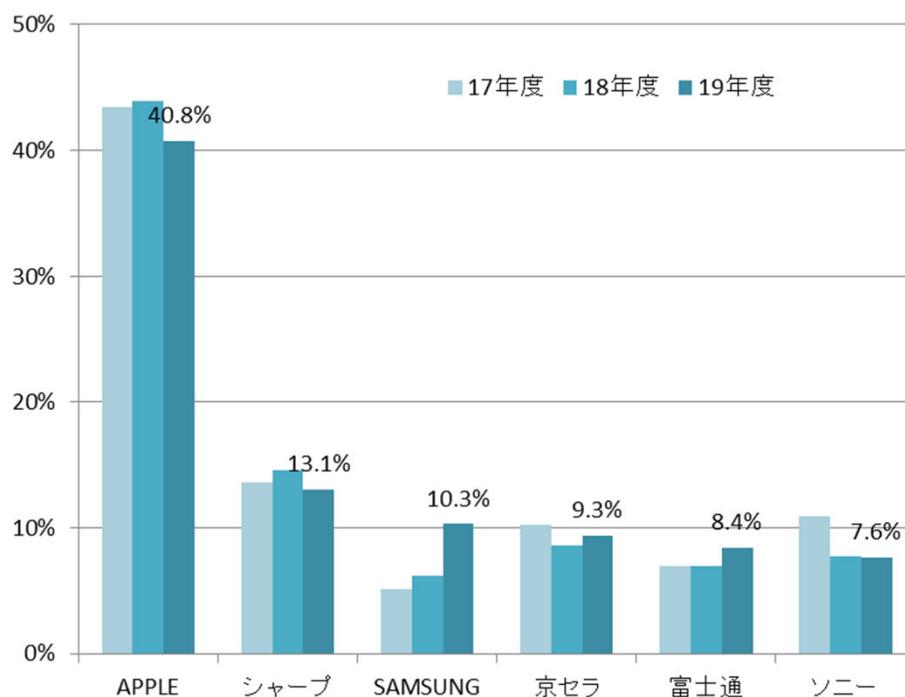
- 2019年度スマートフォン出荷台数は2,802.5万台、前年度比8.5%減で2年連続でマイナス。総出荷台数に占めるスマートフォン比率は89.7%となった。2012年度以降では過去最少となった。
- 2019年度末にスタートした5G対応スマートフォンは約27万台（スマートフォン全体の1%）となった。



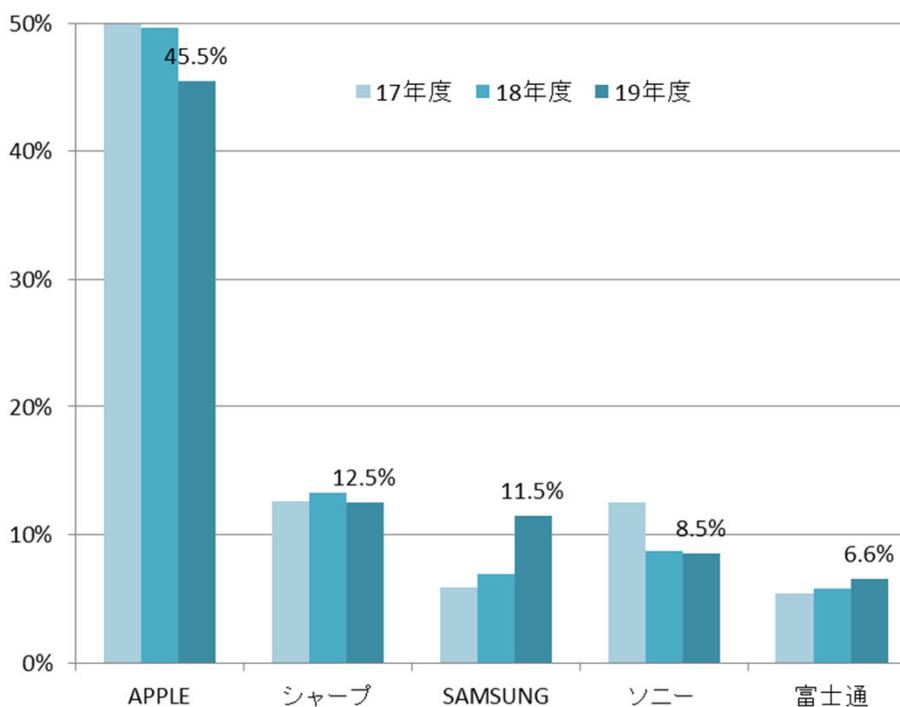
## 上位メーカー別の出荷台数シェア

- 2019年度のメーカー別携帯電話出荷台数1位のAPPLEはシェア40.8%、スマートフォン出荷台数シェアでは45.5%。前年度から減少しているがスマートフォン市場の約半数を占める。
- 2位以下では3位のSAMSUNGが上昇傾向。日本市場での出荷台数は過去最高で、フィーチャーフォンを含めた出荷台数シェアでも3位となった。

携帯電話出荷台数シェア  
(フィーチャーフォン+スマートフォン)



スマートフォン出荷台数シェア

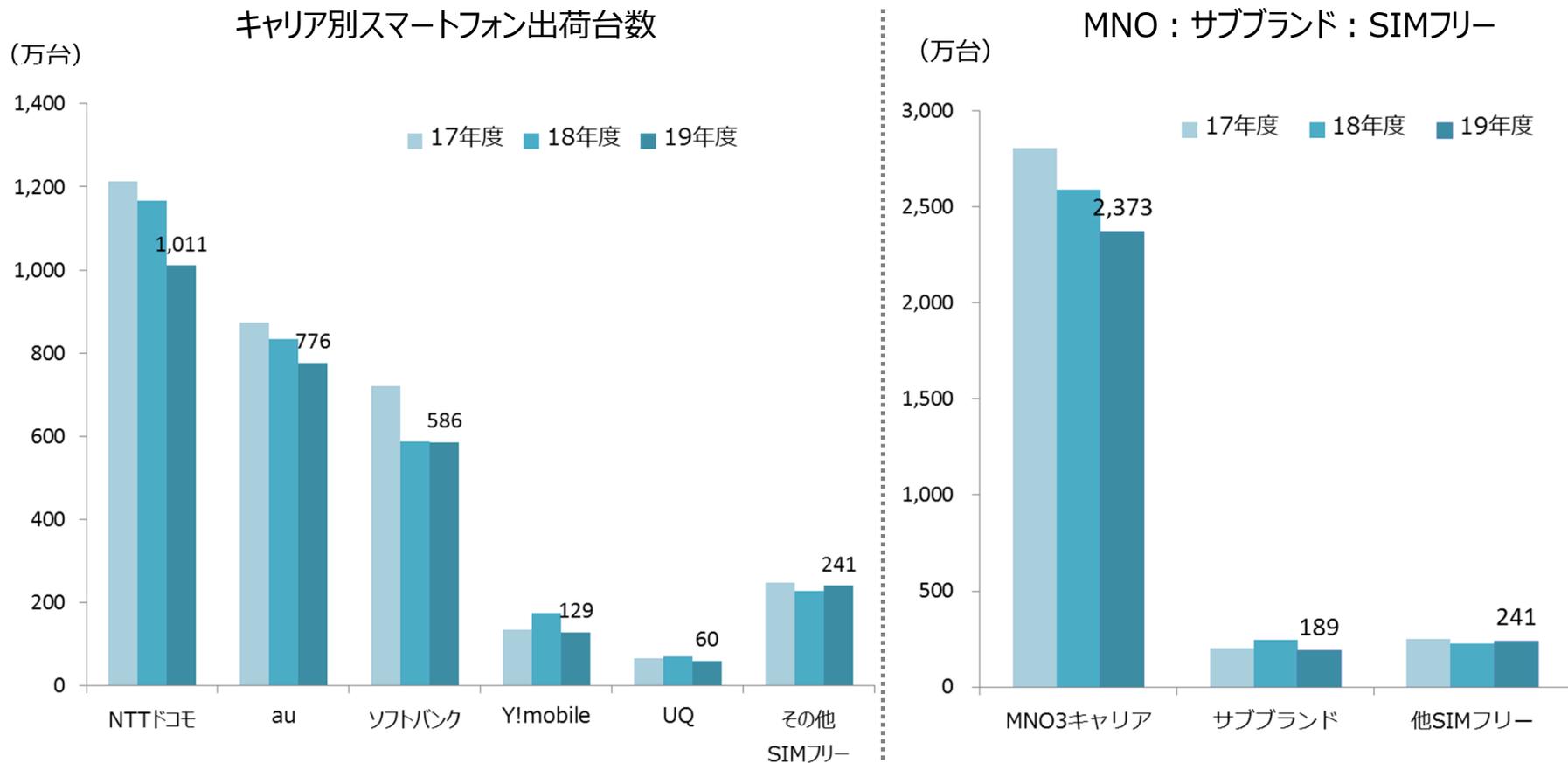


\*ソニーの正式名称はソニーモバイルコミュニケーションズ  
\*富士通の正式名称は富士通コネクテッドテクノロジーズ

\*シェア表記は19年度通期

## キャリア別のスマートフォン出荷台数シェア

- キャリア別スマートフォン出荷台数はNTTドコモが1,011万台と最も多い。しかし、ドコモを含むMNO3社は2017年度と比較すると徐々に減少している。一方、サブブランド、他SIMフリーは年度で若干の変化はあるが横ばいとなっている。



\*台数表記は19年度通期

\*縦軸の台数レンジが左右のグラフで異なる点に注意

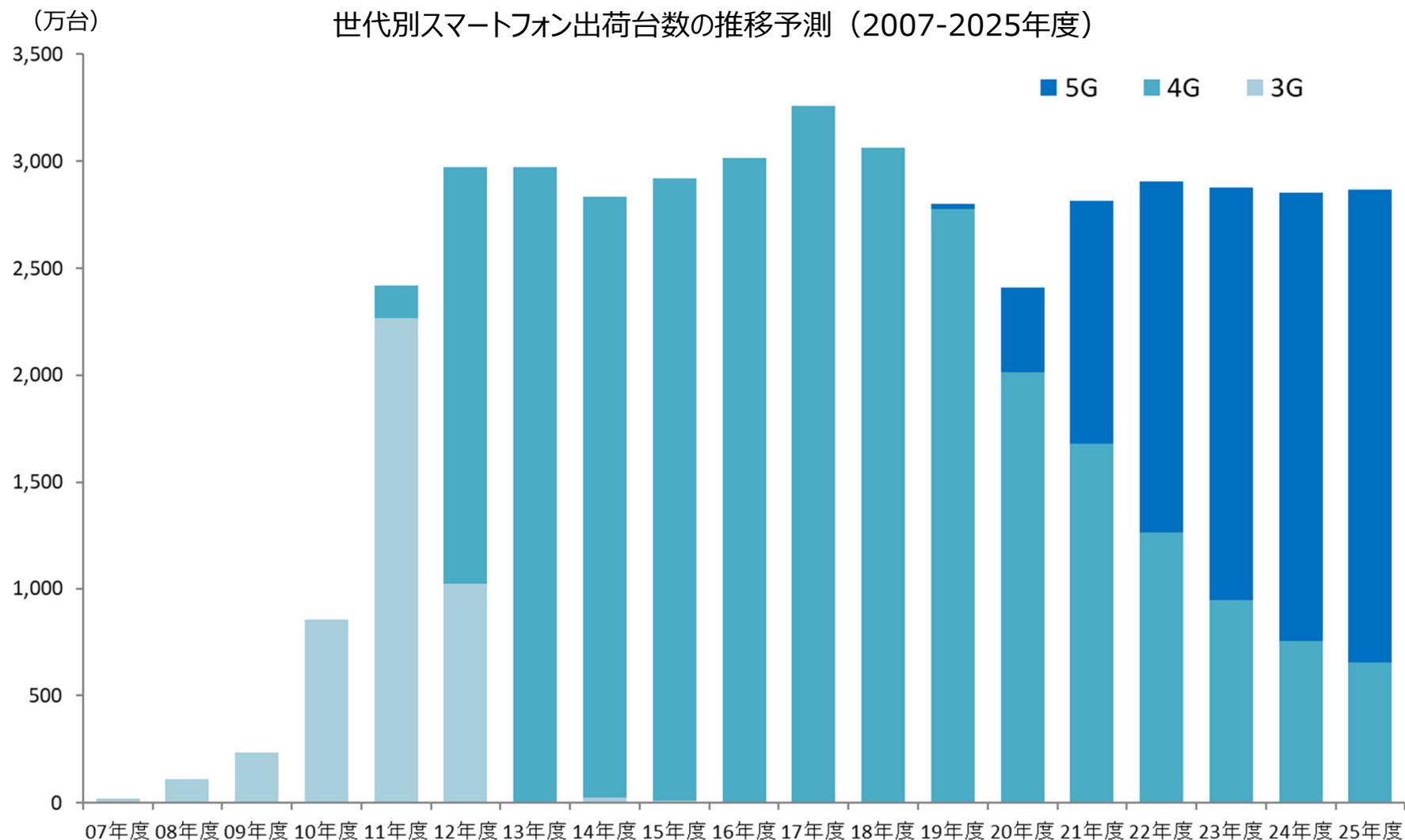
構成員限り

構成員限り

構成員限り

## スマートフォン出荷台数の予測（～2025年度）

- 2020年度は新型コロナの影響もあり2,410万台（14%減）と予測。うち5G対応は396万台でスマートフォン出荷の16.4%を占める。
- 3G→4Gシフトは約2年で一気にシフトしたが、4G→5Gシフトは緩やかになると予測する。5Gスマートフォンが過半数を占めるのは22年度の見通し。

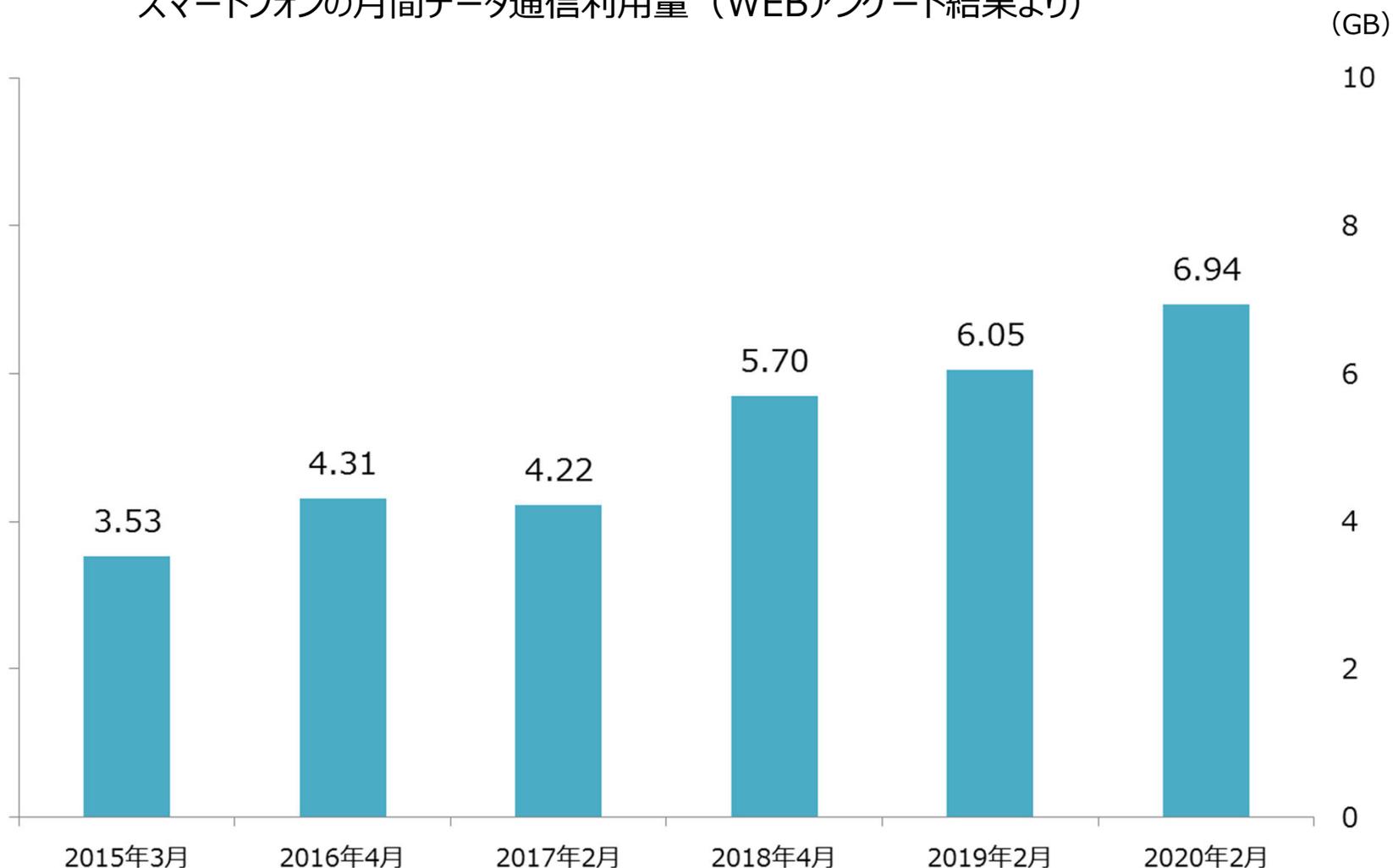


\*MM総研調べ。2020年度以降は予測値

## スマートフォンのデータ通信利用量

- WEBアンケート調査結果によるスマートフォン利用者の月間データ通信利用量は2020年2月時点で6.94GB。過去5年間で約2倍に増加してはいるが、増加ペースは比較的緩やかに見える。

スマートフォンの月間データ通信利用量（WEBアンケート結果より）

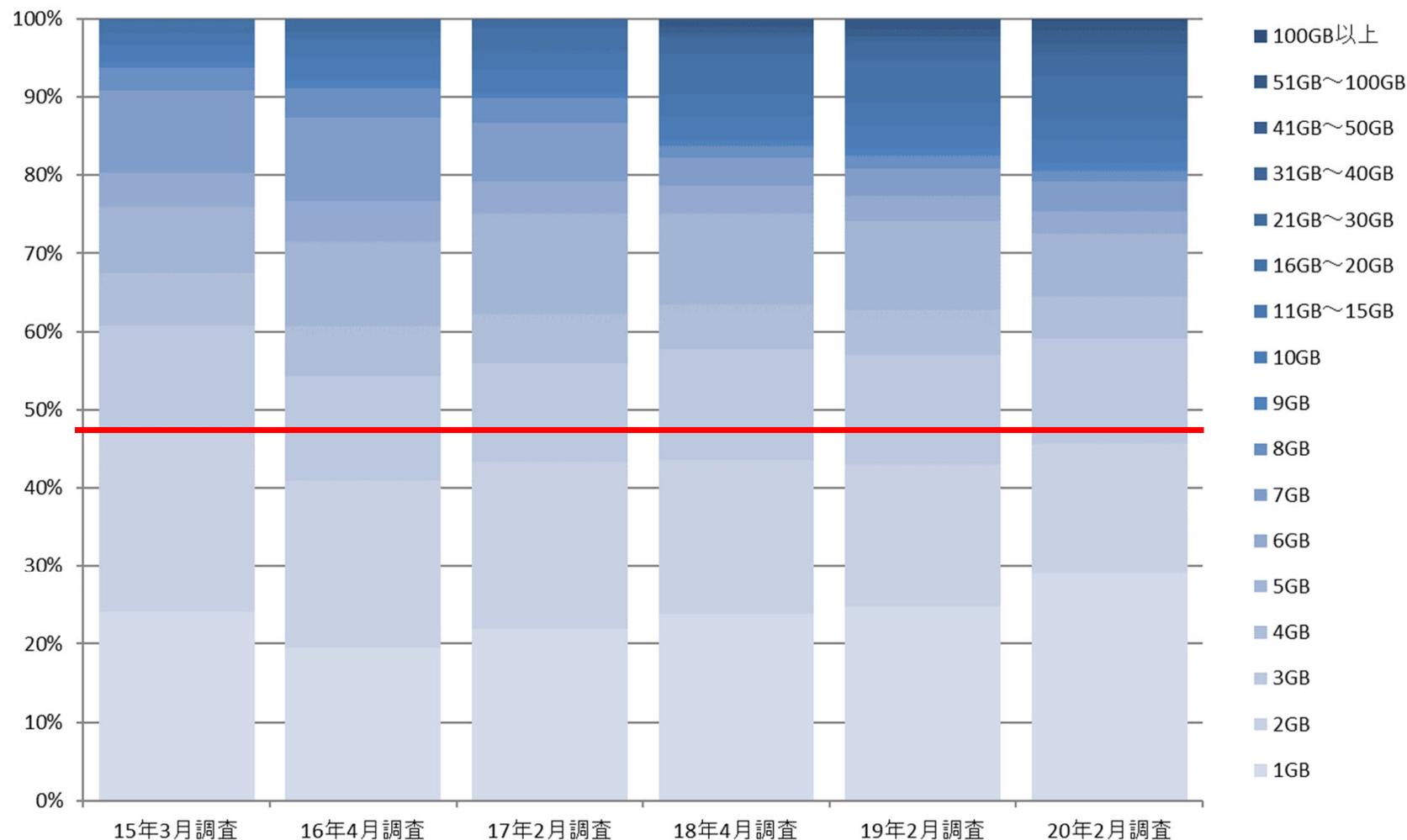


\*WEBアンケート結果を基にMM総研分析。モバイル通信分としての月間平均利用量

## スマートフォンのデータ通信利用量

- 累計50%となる中央値は3GBで変化なし。
- 10GB以上の大容量が2015年3月（5.3%）から2020年2月（18.3%）と少しずつ増加している。

スマートフォンの月間データ通信利用量の分布（WEBアンケート結果より）



\*WEBアンケート結果を基にMM総研分析。モバイル通信分としての月間平均利用量

- ◆ 2019年度スマートフォン出荷台数は前年度比8.5%減の2802.5万台。2012年度以降では過去最少となった。2020年度は新型コロナの影響もあり、2,410万台（14%減）と更に減少する見通し。
- ◆ 電気通信事業法の一部改正に基づく新料金プランの影響により、2019年10月以降のスマートフォン販売台数は減少。特に大手キャリア間でのMNP（キャリア乗り換え）が減少した。これは新プランの影響に加えて、端末値引き額の制限による端末取得目当ての販売が減少したためと考えられる。
- ◆ 2019年度の5Gスマートフォン出荷台数は約27万台。スマートフォン出荷台数の1%に留まる。3Gから4G対応は2年間で一気に拡大したが、4Gから5Gの切り替えは前回よりは緩やかになると予測する。5Gスマートフォンが年間出荷の過半数となるのは2022年度を見込む。理由の一つとして、2020年3月末時点でもフィーチャーフォン利用者が2,600万件規模、そのうち3Gが60%を占める。そうした3Gフィーチャーフォンから4G端末への移行を促進していく中で、必ずしも5Gスマートフォンが急務ではないことがあげられる。